

令和3年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 公益財団法人埼玉県下水道公社	エントリー部門 <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 学校・NPO・任意団体等
取組名 埼玉県下水道公社職員手作りの広報動画	
責任者 氏名：若狭公一、篠原知秀 所属：埼玉県下水道公社本社 電話：048-838-8585 E-mail： master@saitama-swg.or.jp	
担当チームの構成 埼玉県下水道公社の職員 外部人材：ミス日本「水の天使」※中川水循環センターPR動画に出演	
取組のポイント コロナ禍で施設見学会や各種イベントを中止せざるを得ない中、次の動画を埼玉県下水道公社の職員が“手作り”で制作し、YouTubeやTwitterで配信しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・中川水循環センターPR動画～ミス日本「水の天使」が施設を案内～ ・国土交通省「下水道の魅力を伝える10秒程度の動画」のパロディ動画 	
アピールポイント <ul style="list-style-type: none"> ・動画の企画、撮影（スマートフォン）、編集を職員が自前で行うことで、少ない予算（水の天使の出演料のみ）で制作することができました。 ・中川水循環センターPR動画は、通常の施設見学会の様子ではなく、「水の天使」が自撮りした映像を交えながら施設内をレポートする構成とし、視聴者の方に臨場感を味わっていただけるように工夫しました。また、現在は中に入ることができない消化タンクの内部や、見学会では案内しない消化タンクの屋上（高さ26m）などの貴重な映像を多く収録しました。さらに、メディアの方に見ていただきやすいように、本編4本（各3分）をまとめたダイジェスト版（3分）を編集しました。 ・パロディ動画は、フォロワー数が30万人を超える国土交通省公式Twitterから配信された動画と併せて視聴していただくことで、効果的に広報することを狙いとしました。昨年度、全国で初めてこのパロディ動画を制作・公開し、今年度は2回目になります。撮影と編集を合わせて2日間で行いました。 	
要したコスト ミス日本「水の天使」出演料	

取組の概要

1 中川水循環センターPR動画（新規事業）

(1) 公開日 令和3年2月8日

※右の写真は、スマートフォンを使った
動画撮影の様子（令和2年11月）



(2) 動画の内容（Vol.1～Vol.4・ダイジェスト版）

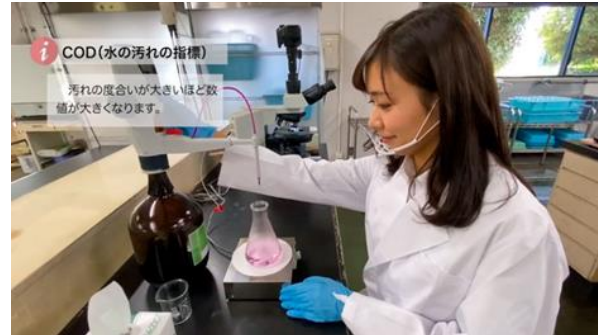
Vol.1

中川水循環センター入口、下水道公社事務室など



Vol.2

水質検査、埼玉の下水道マスコットの紹介など



Vol.3

高度処理施設を巡る、最終沈殿池に映る青空 など



Vol.4

消化タンク（屋上・内部）、汚泥焼却炉 など



2 パロディ動画（昨年度に続き2回目）

(1) 公開日 令和3年9月10日

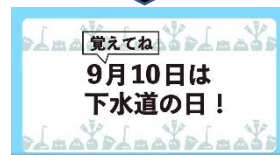
(2) 動画の内容 早押しクイズ『9月10日は何の日？』

パロディ動画（下水道公社職員出演）

国土交通省の動画（「水の天使」出演）



- 1人目「ポイント3倍の日」
- 2人目「ポイント10倍！」
- 3人目「ポイントひゃくぼ・・・」



成果

- ・中川水循環センターPR動画は、日本経済新聞(地方版)などに掲載され、公開から9か月間の動画再生回数は合計約4,100回です。この数字は、埼玉県下水道公社が維持管理運営している5つの水循環センターの年間施設見学者数(令和元年度8,298人)の半数に相当します。
- ・パロディ動画は、公開から2か月間の動画再生回数が1,600回でした(国土交通省の動画は約2,300回)。国土交通省公式Twitterにリツイートしていただいたことで、全国の方に埼玉県下水道公社のPRができました。